

平成 26 年度 「臨地実習教育会議」 レポート

臨地実習会議は、臨地実習施設と看護学部で協同して看護学生を育成するために、学生の実習経験を共有し、教育・指導のあり方を考えることを目的として、開学直後より継続して行われています。

今年度は3月9日、大学内で臨地実習会議が開催され、県内各地の臨地実習施設より81名の方が参加されました。全大会 13:30~15:00 と分科会 15:15~16:30 の2部構成で行われ、全大会では、真壁看護学部長より看護学生が看護師となっていくためには、臨地実習における指導者の協力が欠かせないことが強調され、引き続きの協力を受け賜りたいとのお願いがなされました。さらに、平成24年度より始まったカリキュラムについて坂本祐子先生より説明がなされました。次に、実習における学生の学びについて教員と臨地実習指導者から報告されました。今年度は3学年に開講されている実習の中から、新カリキュラムより設けられた「急性期にある人の看護学実習」および「慢性疾患を持つ人への看護学実習」における学生の学びが脇屋友美子先生および井上水絵先生から報告されました。臨地の立場から臨地実習指導者の医大附属病院の看護師さんから意見が述べられました。

質疑応答の時間では、患者選定や指導するスタッフの育成についての課題が提示されました。また、コミュニケーションは学内ではどのような指導がなされているかの質問があり、シンポジストの教員よりコミュニケーションはケースごとに対応し、また看護師さんの対応から学んでいると考えていると応えられました。短い時間ではありましたが、平日頃より互いが考え感じていることを表出する時間となりました。

分科会では、「基礎看護学実習ⅠⅡ」「小児看護学実習」「急性期にある人の看護学実習」「慢性疾患を持つ人の看護学実習」「精神の健康障害を持つ人への看護」「地域看護学・地域を理解する実習」で行われました。各実習において学生の学びがよりよいものとなるように活発な意見交換がなされました。

